

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月13日

上場会社名 株式会社ソフトフロントホールディングス 上場取引所 東  
コード番号 2321 URL https://www.softfront.co.jp/  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 二通 宏久  
問合せ先責任者 (役職名) グループ業務推進室 (氏名) 狩野 健治 TEL 03-6550-9270  
半期報告書提出予定日 2024年11月13日 配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

## (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	393	1.8	△13	-	△14	-	△24	-
2024年3月期中間期	386	119.0	△72	-	△72	-	△84	-

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 △24百万円 (-%) 2024年3月期中間期 △80百万円 (-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△0.78	-
2024年3月期中間期	△2.75	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	426	147	25.1
2024年3月期	515	171	25.4

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 106百万円 2024年3月期 131百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,105	24.2	80	-	80	-	-	-	-

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、算定が困難であることから未定としております。

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期中間期	30,873,299株	2024年3月期	30,873,299株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	97株	2024年3月期	97株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年3月期中間期	30,873,202株	2024年3月期中間期	30,779,213株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている今後の見通し等の将来に関わる記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、本資料に全面的に依存した投資等の判断は差し控えます。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	6
中間連結損益計算書 .....	6
中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、エネルギーや原材料価格の高騰に伴う物価上昇や、金利が変動したことに伴う為替動向の影響がありましたが、国内での経済活動の活発化によって、企業の業績が改善傾向を見せる等、緩やかながらも景気は回復の動きが続きました。

日本経済の先行きにつきましては、雇用や所得環境が改善するなかで、継続的な財政・金融政策などの効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されます。一方で、欧米における高い金利水準の継続や、中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが日本経済を下押しするリスクになっています。また、金融資本市場の変動や中東地域を巡る情勢など、経済に与える影響には十分に注意する必要があります。

このような経済環境の下、ITサービス市場におきましては、顧客企業におけるIT投資の拡大基調が続いております。世界的な物価の上昇や欧米金利の高止まり等の海外景気の下振れの懸念はあるものの、幅広い業種にわたって事業の拡大や競争力強化を目的としたIT投資への意欲は力強いものがあり、社会のデジタル化に対応するための既存システムのクラウド対応需要等、IT投資需要の持続的な拡大が期待されます。

当社グループにおける顧客企業の動向につきましては、様々な業態におきまして業務効率化と生産性向上への強い意欲や、企業価値向上に向けたWeb等へのIT投資を背景に当社サービスの拡大導入への需要が継続しており、今後も継続していくものと考えております。

当社グループにおきましては、過年度から引き続き収益構造の改善に取り組むとともに、当連結会計年度におきましても、継続して当社サービスのブランディングをはじめとしたマーケティング施策の構築及び実行により顧客との商談機会が増加し、提供する各種製品によるストックビジネスの積み上げを進めてまいりました。

また、当社グループにおける活動方針であります「売りやすく、作りやすく、使いやすく」を掲げ、マーケティング（認知向上）や顧客ニーズに寄り添う支援体制の強化、プロダクト開発に積極的に取り組んでまいりました。その中心となる主力製品が、自然会話AIプラットフォーム「commubo（コミュボ）」及びクラウド電話サービス「telmee（テルミー）」並びにWebサイトやコンテンツを簡単に構築・管理・更新できるシステム「SITE PUBLIS（サイトパブリス）」であり、当中間連結会計期間における事業活動により次の成果が得られております。

#### <commubo>

##### 機能強化（使いやすく）活動

- ・日本語特有の課題に挑戦した新音声認識エンジンを自社開発、人名の誤り率を30%改善
- ・電話対応の自動化を促進する新音声認識エンジンをデモ公開、AIボイスボット「commubo」に6月30日より搭載開始

##### 外部連携（作りやすく）活動

- ・グローバルCTIベンダーのジェネシスクラウドサービス株式会社とのパートナーシップ、AIボイスボット「commubo」とGenesys Cloudの連携を開始、音声コミュニケーションの観点から顧客体験（CX）を加速
- ・国内トップシェアCTIベンダーである株式会社リンクのクラウド型コールセンターシステム「BIZTEL」とAIボイスボット「commubo」が連携、一歩先を行くCTI連携で人とロボットのハイブリッド業務を実現

##### 認知向上（売りやすく）活動

- ・電話対応業務担当者のAIボイスボット「commubo」に対する評価について、第三者機関の調査結果を公表、「自社業務にもフィットしそう：81%」「サポート充実度：92%」「聞き手の不快感が少ないと思う：85%」

##### 導入事例・他の活動

- ・教習所DX化を推進する岐阜県関自動車学校がAIボイスボット「commubo」を導入、年間3,500件の高齢者講習受付を自動化
- ・commubo、「AIsmiley PRODUCT AWARD 2024 SUMMER」ボイスボット部門を受賞（現場で使いやすい操作性と自然な対話機能を評価）
- ・立ち上げ工数大幅に削減、短期大量発信も迅速対応を実現したコンタクトセンターBPO のディー・キュービックがAIボイスボット「commubo」を選ぶ理由を公開
- ・PRTIMES STORYにcommuboカスタマーサクセスストーリーを公開

#### <telmee>

##### 機能強化（使いやすく）活動

- ・顧客増、利用増に備えたサービスインフラ設備の新設、増強

<SITE PUBLIS>

認知向上(売りやすく)活動

- ・販売パートナー向けに弊社CMSの操作方法、実装方法のレクチャー会を定期的に開催し、新規も含め販売パートナーとのリレーションを強化
- ・販売パートナーとの共催セミナーを実施し、社内報クラウドサービス「TSUTAERU」の顧客への浸透を図るとともに受注に向けた提案
- ・CMSの選定方法、「SITE PUBLIS」の操作方法といったオンラインセミナーを複数開催することにより認知度を向上させるとともに、受注に向けた活動を推進

以上の結果、当社グループの当中間連結会計期間の経営成績は、売上高393,599千円(前年同期比1.8%増)、営業損失13,571千円(前年同期は営業損失72,543千円)、経常損失14,620千円(前年同期は経常損失72,185千円)、親会社株主に帰属する中間純損失24,140千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失84,585千円)となりました。

売上高につきまして、前年同期に比べ微増となり、主力製品であります「commubo」及び「telmee」の営業活動による引合いが増加しており、受注に向けた商談に引き続き傾注してまいります。

当社グループの主力製品であります「commubo」及び「telmee」は月額課金のストック型ビジネスであり、また「SITE PUBLIS」も保守契約等のストック型ビジネスであることから、売上高においては今後も顧客数の伸びに応じて安定的な収益が堅調に推移するものと見込んでおりますが、受託開発売上においては、顧客企業の動向による受注の遅れにより売上の計上が期ずれする可能性があります。

なお、当社グループは、コミュニケーション・プラットフォーム関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は353,968千円となり、前連結会計年度末に比べ82,416千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が21,525千円、受取手形、売掛金及び契約資産が57,435千円減少したことによるものであります。固定資産は72,071千円となり、前連結会計年度末に比べ6,996千円減少いたしました。これは主に、ソフトウェアが4,190千円、投資その他の資産のその他が2,228千円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は108,247千円となり、前連結会計年度末に比べ79,261千円減少いたしました。これは主に、営業未払金が16,457千円、流動負債のその他が64,893千円減少したことによるものであります。固定負債は170,099千円となり、前連結会計年度末に比べ13,858千円増加いたしました。これは、固定負債のその他が13,858千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は147,692千円となり、前連結会計年度末に比べ24,010千円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純損失を計上したことにより利益剰余金が24,140千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は25.1%(前連結会計年度末は25.4%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は現在、「事業計画及び成長可能性に関する事項」に基づき、既存事業の再構築と事業基盤の強化、財務基盤の充実と戦略的な投資計画の実行、資本・業務提携、M&Aによる業容の拡大に取り組んでおり、当第2四半期においては営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上となりましたが、「commubo」、「telmee」及び「SITE PUBLIS」は、月額課金のストックビジネスであり、継続的且つ安定的な利用料が推移していくものと見込んでおります。「SITE PUBLIS」においては複数の受注案件があり今後適時に売上が計上されていくことから通期における業績はほぼ当初の想定通りとなっております。

通期の連結業績予想としましては、2024年6月24日の「連結業績予想に関するお知らせ」において公表した業績予想からの変更はありません。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、投資計画の実行、資本・業務提携、M&Aの実行についてその実施時期など不確定な要素が多く引き続き未定とさせていただきます、通期業績予想の算定が可能となった時点であらためて開示させていただきます。

また、業績予想の算定においては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、社会・経済情勢の変化、新型コロナウイルス感染症拡大による影響など、実際の業績は、様々な要因により大きく変動する可能性があります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2020年3月期まで9期連続の営業損失を計上しており、2021年3月期において黒字転換を果たしたものの、2022年3月期以降再び営業損失を計上しており、当中間連結会計期間においても、営業損失13,571千円、経常損失14,620千円、親会社株主に帰属する中間純損失24,140千円を計上しております。財務基盤は未だ盤石とは言えず、不測の事態が発生すれば、手元流動性の確保に支障が生じる可能性もあることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

今後の施策等につきましては、「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	206,026	184,500
受取手形、売掛金及び契約資産	208,894	151,458
その他	21,465	18,757
貸倒引当金	—	△748
流動資産合計	436,385	353,968
固定資産		
無形固定資産		
ソフトウェア	39,436	35,245
ソフトウェア仮勘定	6,581	5,872
無形固定資産合計	46,017	41,118
投資その他の資産		
その他	72,050	69,821
貸倒引当金	△38,999	△38,868
投資その他の資産合計	33,050	30,953
固定資産合計	79,068	72,071
資産合計	515,453	426,040
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	27,451	10,994
1年内返済予定の長期借入金	9,984	4,146
未払法人税等	1,560	9,487
その他	148,512	83,619
流動負債合計	187,509	108,247
固定負債		
債務保証損失引当金	156,241	156,241
その他	—	13,858
固定負債合計	156,241	170,099
負債合計	343,750	278,347
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	22,224	22,224
資本剰余金	394,088	394,088
利益剰余金	△285,108	△309,249
自己株式	△64	△64
株主資本合計	131,139	106,998
新株予約権	1,211	1,211
非支配株主持分	39,352	39,483
純資産合計	171,703	147,692
負債純資産合計	515,453	426,040

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	386,529	393,599
売上原価	242,675	215,426
売上総利益	143,854	178,173
販売費及び一般管理費	216,397	191,744
営業損失(△)	△72,543	△13,571
営業外収益		
受取利息	135	18
貸倒引当金戻入額	296	—
その他	75	5
営業外収益合計	507	23
営業外費用		
支払利息	149	54
貸倒引当金繰入額	—	1,017
その他	0	0
営業外費用合計	149	1,072
経常損失(△)	△72,185	△14,620
特別利益		
投資有価証券売却益	—	100
特別利益合計	—	100
税金等調整前中間純損失(△)	△72,185	△14,520
法人税、住民税及び事業税	579	9,490
法人税等調整額	7,640	—
法人税等合計	8,219	9,490
中間純損失(△)	△80,405	△24,010
非支配株主に帰属する中間純利益	4,179	130
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△84,585	△24,140



## (中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純損失(△)	△80,405	△24,010
中間包括利益	△80,405	△24,010
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△84,585	△24,140
非支配株主に係る中間包括利益	4,179	130

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純損失(△)	△72,185	△14,520
減価償却費	37,113	14,741
のれん償却額	9,948	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△896	617
受注損失引当金の増減額(△は減少)	286	—
受取利息及び受取配当金	△135	△18
支払利息	149	54
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△100
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	14,682	57,435
仕入債務の増減額(△は減少)	△7,843	△16,457
前受金の増減額(△は減少)	5,623	2,007
その他	9,924	△50,239
小計	△3,332	△6,478
利息及び配当金の受取額	135	18
利息の支払額	△130	△41
法人税等の支払額	△1,158	△1,563
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,485	△8,065
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
無形固定資産の取得による支出	△19,215	△9,842
投資有価証券の売却による収入	—	100
貸付金の回収による収入	2,015	2,120
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,200	△7,622
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△5,220	△5,838
株式の発行による収入	24,400	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,180	△5,838
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,506	△21,525
現金及び現金同等物の期首残高	157,003	206,026
現金及び現金同等物の中間期末残高	154,497	184,500

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社グループは、コミュニケーション・プラットフォーム関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社グループは、コミュニケーション・プラットフォーム関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、2020年3月期まで9期連続の営業損失を計上しており、2021年3月期において黒字転換を果たしたものの、2022年3月期以降再び営業損失を計上しており、当中間連結会計期間においても、営業損失13,571千円、経常損失14,620千円、親会社株主に帰属する中間純損失24,140千円を計上しております。財務基盤は未だ盤石とは言えず、不測の事態が発生すれば、手元流動性の確保に支障が生じる可能性もあることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

このため、当社グループは、安定的な黒字基盤を確立し健全な財務体質を確保することを最優先課題として、以下に示す3つの施策を積極的に推進し、当社グループにおける経営基盤の強化を進めてまいります。

## ① 既存事業の再構築と事業基盤の強化

既存事業のうち、コア事業であるボイスコンピューティング事業とコミュニケーション・プラットフォーム事業に経営資源を投下し、事業を拡大してまいります。

具体的には、今後の急成長分野として期待するボイスコンピューティング分野において事業展開する、自然会話AIプラットフォーム「commubo（コミュボ）」の提供により、コールセンター業務への対応、電話による営業アポイントメントの獲得、企業の代表電話の受付、通販・テレビショッピングの注文受付など様々な利用シーンへの展開が期待され、同様にサービスの拡販に力を入れてまいります。

様々なシステム環境に電話の機能を安価にかつスピーディに組み込んでサービス提供することを可能とするクラウドサービス「telmee（テルミー）」におきましては、commuboとの連携も含め顧客ニーズにマッチしたサービスの拡販に力を入れてまいります。

専門知識がなくてもWebサイトやコンテンツを構築管理・更新できるソフトウェア「SITE PUBLIS（サイトパブリス）」とページ制作・構築・保守などの関連サービスを提供する株式会社サイト・パブリスにおいて、さらにはこれからの時代に即したソフトウェア開発を行い、企業と、お客様、従業員、パートナーなどあらゆるステークホルダーをつなぐコミュニケーション基盤としてさらなる拡販を図るとともに、ボイスコンピューティング事業とのシナジーを創出することに力を入れてまいります。

## ② 財務基盤の充実と戦略的な投資計画の実行

当社グループは、不採算事業の見直し、徹底した経費削減等への取組みなど、一連の経営再建活動により業績の回復を進めてまいりましたが、さらに、グループ全体の効率化や合理化を図ってまいります。また、開発投資やM&A投資などで資金が必要になった場合は、柔軟な資金調達をすすめてまいります。

## ③ 資本・業務提携、M&amp;Aによる業容の拡大

当社は、これまで株式会社デジタルフォロンとの資本業務提携などにより、手元資金の確保のため資金調達を行うとともに人材の確保、事業の拡大のための投資を進めてまいりました。さらに、当社取引先や当社コミュニケーション・プラットフォーム関連事業分野の隣接エリアとの連携の強化を図るとともに、積極的に資本業務提携やM&Aによる業容の拡大と事業基盤の構築をしてまいります。

上記の施策により、収益基盤を確保し経営の安定化を図り、当該状況が解消されると判断しておりますが、業績の安定化は経済環境等の影響を受け、計画通りに進捗しない可能性があることなどから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表に反映しておりません。